

はじめての
万葉集
日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介します

vol. 130

みみなし
耳無の池

歌に詠まれた「耳無の池」とは、奈良県
橿原市の耳成山みみなしやまの麓にかつてあった池
です。現在、南麓の耳成山公園内の古池
のほとりにこの歌の碑が建てられてい
ますが、古代に「耳無の池」と呼ばれて
いた池がどこにあったかはよくわかって
いません。

耳成山は、香具山かぐやま・畝傍山うねびやまとともに
大和三山と呼ばれ、『万葉歌』(巻一・
一三番歌、五二番歌など)にも詠まれて
います。藤原京の中心部である藤原宮
は、三山に囲まれた地に営まれました。
この歌は、漢文で書かれたエピソード
とともに『万葉集』に収載されています。
昔、三人の男性が一人の女性に求婚し
たが、その女性は、一人の女の命は露の
ようにはかなく、三人の男の気持ち

耳無の池し恨めし 吾妹子が
来つつ潜かば 水は洩れなむ

壮士 卷十六(三七八八番歌)

訳 耳無の池は何と恨めしいことだ。
わが妻がやって来て身を投げたら、
水は洩れてほしかったのに。

和らがないのは石のようだと嘆いて池
に身を投げて没した、その時、三人の男
性たちは深い悲しみに堪えられず、それ
ぞれに思いを述べて歌を作った、という
内容です。この歌は、その三首の短歌の
うちの第一首にあたります。

『万葉集』巻十六には、こうした何らか
のいわれを持つ歌々が収められています。
巻頭には、昔、桜児という女性を二人の
男性が取り合い、桜児は木の枝に首を
つつてしまった、というエピソードとと
もに、残された二人の男性が詠んだ歌
が載っています(三七八六〜三七八七
番歌)。それに続いて今回の歌があるこ
とから、複数の男性が一人の女性に求
婚して争い、悲しい結末を迎えるという
悲話ひがわらが、古代の人々を惹きつけたこと
がうかがえます。

同じような悲恋の伝説は摂津にも
あり、田辺福麻呂たなべのさきまろ(巻九・一八〇一〜一八



万葉文化館 イベント情報

◆ 特別展 花と緑に魅せられて

— 佐藤美術館コレクションより —

3月15日(土)

大阪の鶴見緑地で開催され
た「国際花と緑の博覧会」
(花博)の際、日本画家50人
が「花と緑」をテーマに作品
を描きました。本展では、佐
藤美術館が所蔵する関連
作品とともに当館所蔵の
万葉日本画を展示します。



後藤純男「古刹麗春」
平成2(1990)年 佐藤美術館蔵

※ 県内在住、65歳以上の方は身分証明書
をご提示で半額。その他割引制度もある
のでお問い合わせください。

◆ 万葉集をよむ 無料

2月26日(水) 14時〜15時30分

「夏の相聞(1)」(巻8・1498〜1506番歌)

阪口由佳(当館主任研究員)

「定員」150人(先着・申込不要)

※ オンライン視聴(定員なし)は要申込

◆ 万葉古代学講座 無料

3月1日(土) 14時〜15時30分

「万葉歌と楽府詩」

井上さやか(当館企画・研究係長)

「定員」150人(先着・申込不要)

※ オンライン視聴(定員なし)は
要申込

◆ にぎわいフェスタ万葉冬

開催中〜3月9日(日)まで

ひなまつり特別展示

2月21日(金)〜
3月9日(日)まで

エントランスで
展示



奈良県立 万葉文化館
☎0744-54-1850
🌐www.manyo.jp